

アーバンデータチャレンジ2017

# 和歌山ローカルナレッジ

《様々な活動主体による地域情報化》

地域を知り、共有すれば、心が動く。

上仲 輝幸

株式会社 紀伊民報 マルチメディア事業部

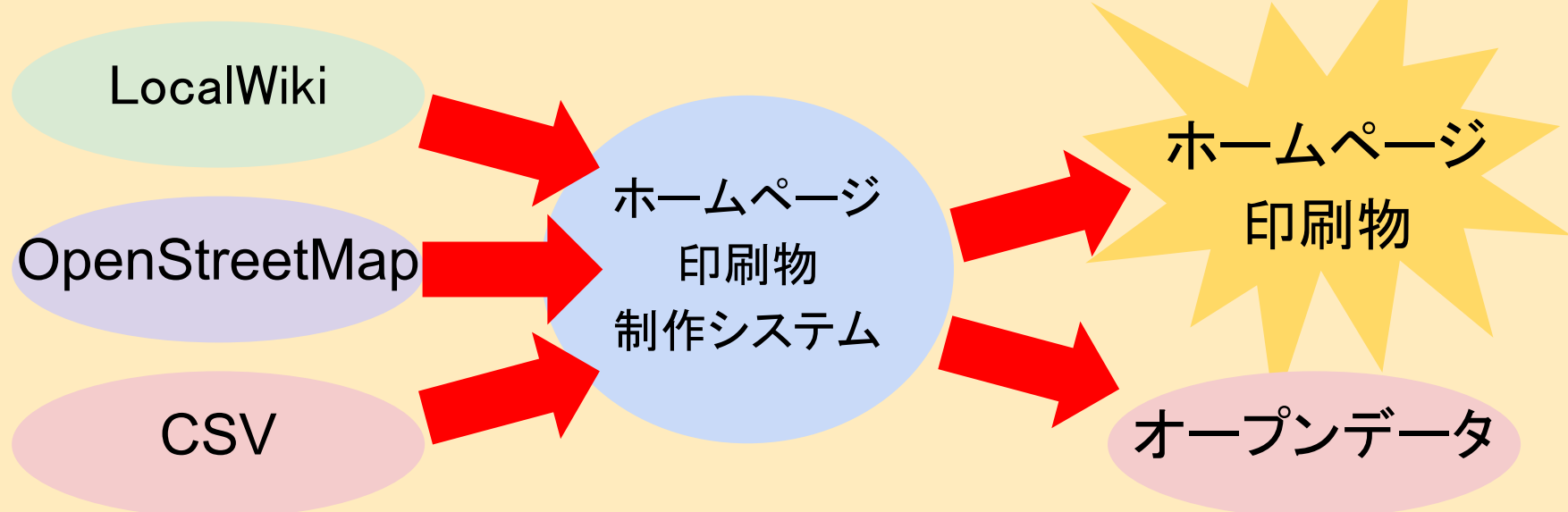
〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100

TEL.0739-26-7171 FAX.0739-81-7181

e-mail:t-kmnk@agara.co.jp

# 和歌山ローカルナレッジとは

- 和歌山県におけるオープンデータの取り組みと、和歌山大学がきっかけで広がったLocalWikiやOSMを活用した、マッピングパーティーやシビックテックの活動。
- 自治体や学校、さまざまな組織や企業、住民などが連携して、地域の歴史や文化、地理、産業、観光資源などを集約し、共有財産とする。
- 紀伊民報のホームページ更新システム「eメイド」を通して、WEBサイトや印刷物で見える化。ソーシャルメディアなどを活用し、情報流通の促進をする。
- さまざまな立場や多世代との交流活動を通じて、情報を共有し、地域課題の解決に取り組み、昔を知り、今に合った地域コミュニティの再構築が最大の目的。



# ホームページ更新システム「eメイド」

- eメイドは、ホームページや印刷物を制作する紀伊民報のシステム。
- さまざまAPIのサービスや、CSVからもインプットとアウトプットが可能。

## 和歌山ローカルナレッジでは、下記を使用して、情報流通の促進を図る

- LocalWikiからAPIで情報を取得し、WEBサイトや印刷物を生成する仕組み
- CSVデータから、WEBサイトを生成する仕組み

CC BYライセンス  
(二次利用、再配布が自由)

### WEBサイト



### 印刷物 (PDF)



# アーバンデータチャレンジ2017の活動紹介



UDC和歌山実行委員会では、**継続した活動を原則**とした、  
下記**3つの枠組み**で、**7つの取り組み**。

- LocalWikiを活用した取り組み【和歌山大学主体】
- LocalWikiを活用した取り組み【上仲（紀伊民報）主体】
- CSVの活用と情報流通の取り組み（別紙資料）

この取り組みで「**eメイド**」を通して、**LocalWikiを活用した7つのサイト**と、  
**CSVを活用したサイト内コンテンツ1つ**を作成。

リンク集：<http://wlk.civic.style/udc2017/>

# 「田辺祭を世界に発信！」～OSMとLoacalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～(1)

## 【活動内容】

450年余りの歴史をもつ田辺祭に、大学生らが参加。住民らの手伝いをしながら祭りの歴史や行事などを調べ、LocalWikiとOSMにまとめる。

本活動の成果は、紀伊民報が開発したLoacalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使って、他の和歌山県ブロックにおける活動の成果もまとめてUDC提出作品とする。

## 【目的】

活動を通して、持続可能な社会を担うリーダーの育成を行うとともに、その成果を通じて地元愛の醸成を行うことが主たる目的。





# 「田辺祭を世界に発信！」～OSMとLocalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～(2)

## 【開催日時・場所】

2017/7/24・25 田辺市街地

[報告会]

2017/10/7 南新町内会館2階

## 【主催・共催・後援】

主催：和歌山大学出口研究室、

和歌山大学 南紀熊野サテライト

後援：上仲輝幸(UDC和歌山実行委員会・紀伊民報)

## 【参加者数】

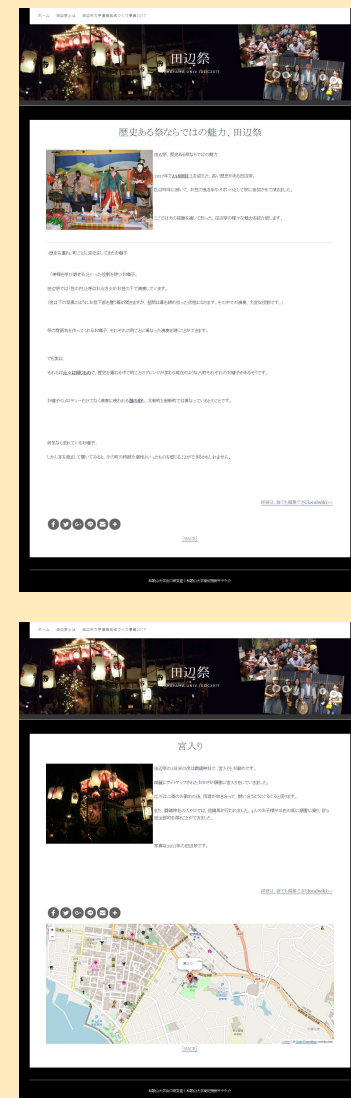
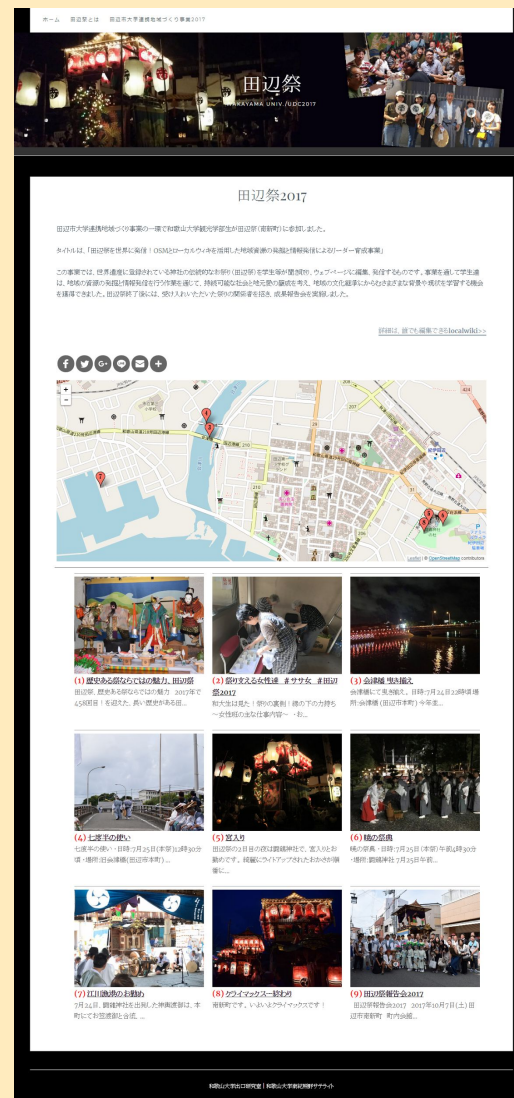
26名：大学教員14名、大学生11名、新聞社1名

[報告会]

40名：大学教員4名、大学生3名、新聞社2名、  
南新町住民30名、和歌山県庁1名

## 【ホームページ】

<http://wutm.civic.style>



# 熊野郷土学A ～郷土学からの地域振興～ 地域情報を発信。LocalWiki、OSM地図で街を編集。(1)

## 【活動内容】

午前中に、地域ガイド、大学教員と共に参加者等が世界遺産と南紀熊野ジオパークエリアである新宮市内の史跡や名勝を巡り、記事を収集。その後、午後から新宮信用金庫5階の授業会場にてLocalWikiとOSM記事を作成する演習を実施した。作業に慣れない社会人受講生や高校生受講生に、経験のある大学生らがサポートしながら各自作成した。その後、皆で作成したページの報告会を開催した。授業実施終了後も継続して市民が記事を記載する活動を継続している。



## 【目的】

熊野地域の資源の発掘と活用を推進することが目的。



[illegible]



# 地域力・仕事再発見ワークショップ(1)

## 【活動内容】

和歌山大学の学生と上富田中学校の生徒が8月25、26日上富田町内の名所や事業所を巡り、地域の人や仕事について学習。

25日は、和歌山県内の活動紹介、UDC2017への参加について説明。その後、熊野古道、歴史、食の3つの班に分かれ、町に出て現地調査。

26日は、LocalWikiへの編集作業。以降は上富田中学校パソコン部のクラブ活動で、引き続き編集作業。

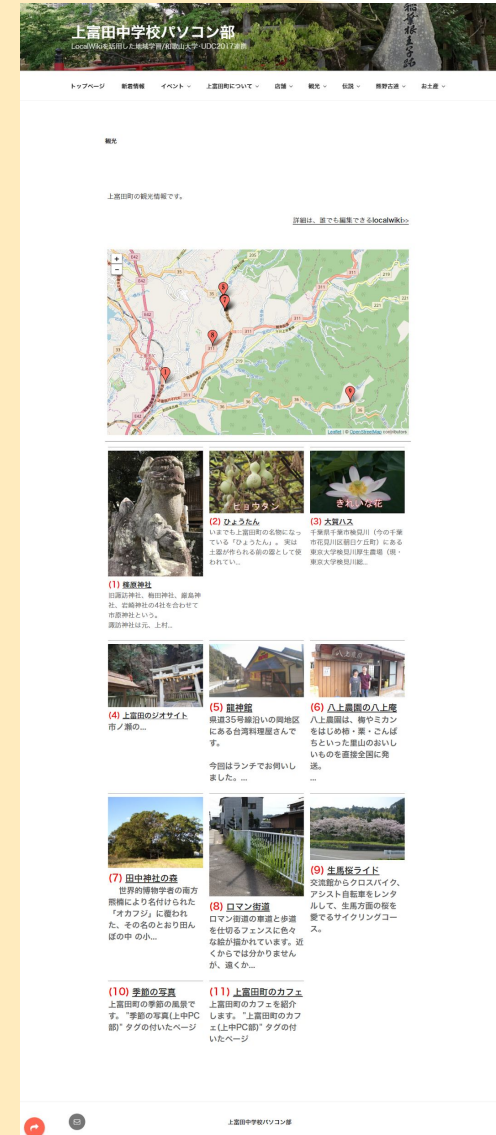
11月1日に上富田中学校文化・学習発表会において報告会。

本活動の成果は、紀伊民報が開発したLocalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使って、他の和歌山県ブロックにおける活動の成果もまとめてUDC提出作品とする。

## 【目的】

和歌山大学が県内の中学校や高校と協力して取り組む「地域人・仕事再発見ワークショップ」。地域の良さを見直すことで若者の定着に繋げることや、コミュニケーション能力の向上などが目的。





# 備長炭を中心とする秋津川の情報化活動(1)

## 【活動内容】

田辺市秋津川公民館と地域住民、地域おこし協力隊、地元高校生、秋津川中学校教諭、元秋津川中学校教諭などが、紀州備長炭発祥の地の秋津川の歴史や、備長炭で作った楽器「炭琴」などの音楽活動などを、LocalWikiにまとめる。サイトイメージの絵は、地元の高校生が担当し、イベントにも参加している。

本活動の成果は、紀伊民報が開発したLocalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使って、他の和歌山県ブロックにおける活動の成果もまとめてUDC提出作品とする。

## 【目的】

秋津川は、人口減少や少子化、過疎化問題が特に深刻。活動を通じて、多世代コミュニティを再構築し、情報を共有、継承する環境を整えることが目的。





# 備長炭を中心とする秋津川の情報化活動(2)

## 【開催日時・場所】

2017/11/13

2017/12/7

2018/1/18

秋津川公民館

## 【主催・共催・後援】

主催:秋津川公民館

後援:上仲輝幸(UDC和歌山実行委員会・紀伊民報)

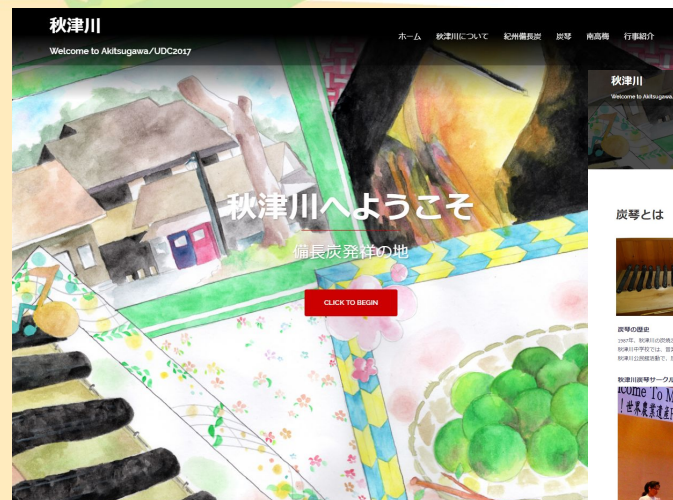
## 【参加者数】

20名:秋津川住民16名、  
秋津川中学校校長と担当教員1名、  
元秋津川中学校教員1名、  
地元高校生1名

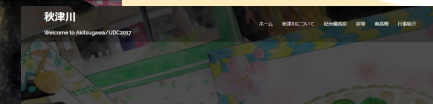
## 【ホームページ】

<http://akizugawa.civic.style>

印刷物(PDF)→



成され、総面積2420平方キロメートルに亘ってあったこと



### 炭琴とは



炭琴とは  
江戸時代から明治にかけて、備長炭の産地である秋津川で盛んな文化活動の一つです。炭の音をピアノの鍵盤に置き換えて演奏する楽器です。炭の音は独特で、心地よいとされています。

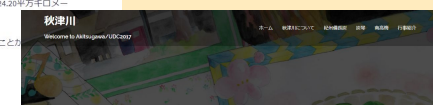
### 炭琴の歴史

1990年、秋津川公民館主催の「秋津川炭の歴史」展が開催されました。この展覧会を通じて、炭の歴史や炭琴の文化について学びました。

### 秋津川炭琴サークル



秋津川炭琴サークルは、秋津川地区の住民による音楽活動のサークルです。炭の音をピアノの鍵盤に置き換えて演奏する楽器です。炭の音は独特で、心地よいとされています。



### 紀州備長炭ができるまで

紀州備長炭は、江戸時代の中頃に秋津川とその周辺の炭坑で産出された。秋津川「備長炭産地」が取り扱う炭は「備長炭」として知られており、秋津川地区の炭坑で産出された。秋津川地区の炭坑で産出された炭は、秋津川地区の炭坑で産出された。



1. 伐採・選出



2. 木ごしらえ



3. 口焚き・乾燥



4. ねらし



5. 炭化



6. 窯出し・消火





# LocalWikiの活用」勉強会(1)

## 【活動内容】

TIEGAは、現在持っている情報をデジタル化する上で、次世代に継承するため、共有財産として情報化をする。学校連携を図れることを目的に、田辺高校の全校生徒が編集できるLocalWikiに情報化をする。

本活動の成果は、紀伊民報が開発したLocalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使って、他の和歌山県ブロックにおける活動の成果もまとめてUDC提出作品とする。

## 【目的】

ガイド個人で持っている情報をデジタル化することと、田辺高校の全校生徒、県内いくつかの中学・高校で編集できるLocalWikiに情報化することで、学校連携を図れることが目的。



# LocalWikiの活用」勉強会(2)

## 【開催日時・場所】

2017/11/11

田辺市民総合センター2階研修室

## 【主催・共催・後援】

主催：TIEGA(田辺国際英語ガイドの会 大河)

後援：上仲輝幸(UDC和歌山実行委員会・紀伊民報)

## 【参加者数】

12名：TIEGAメンバー11名

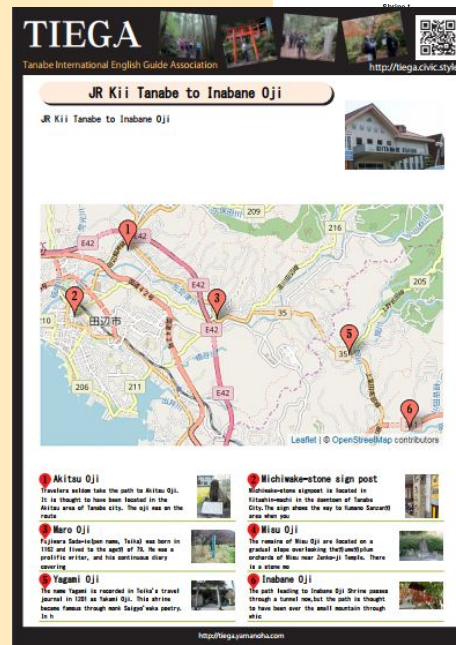
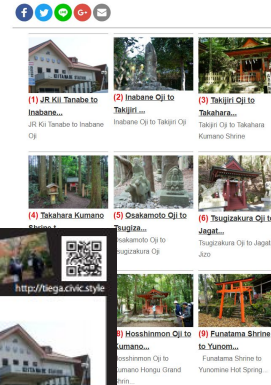
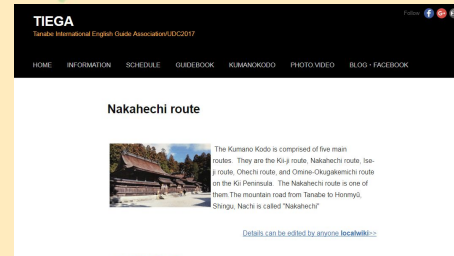
新聞社1名

## 【ホームページ】

<http://tiega.civic.style>

印刷物(PDF)→

LocalWiki内に情報があれば、10分程度で、本日のルートマップや、宿泊施設周辺の観光名所など、オリジナルの印刷物を作成可能。



## TIEGA - Tanabe International English Guide Association



Tanabe International English Guide Association (TIEGA) started in April, 2005. With the registration of the Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range of the UNESCO World Heritage list, sightseeing places along Kumano Kodo Pilgrimage Routes in Wakayama Prefecture have been in the spotlight both from within and outside of Japan. TIEGA is working toward training and educating guides who can guide people both in Japanese and in English.

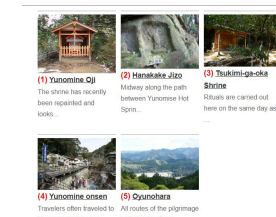
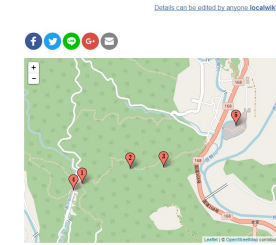
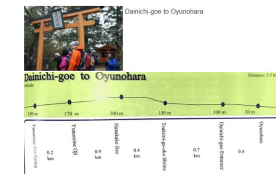
We invite all to tread the paths that remain little changed over the ages.

Experience the struggle to overcome your tiredness. Know the joy of challenging the steep slopes - both up and down. Breathe in the crystal clear air and be revitalized. Gaze out over the vast expansive views of the Pacific and the undulating mountains of the Kii Peninsula from the trails along the many routes. Sit at peace with yourself and the world. Each person experiences the Kumano ancient trails in their own way, and most come away more in tune with nature in heart, mind and soul.

Home Page: <http://tiega.yamashiro.com>



## Dainichi-goe to Oyunohara



# 串本街歩き & LocalWiki編集会(1)

## 【活動内容】

串本町では、古民家再生プロジェクトに伴い運営団体を設立予定。古民家を宿泊施設にするとともに、2016年10月に、世界遺産熊野古道の追加登録箇所もあることから、地域情報をLocalWikiやOSMにまとめる。今回のイベントでは、串本古座高校CGS部(別名:地域包括的支援部)の代表と、古民家周辺を街歩きし、LocalWikiとOSMの編集作業をした。

本活動の成果は、紀伊民報が開発したLocalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使って、他の和歌山県ブロックにおける活動の成果もまとめてUDC提出作品とする。

## 【目的】

観光情報環境の整備と、地域みんなので、地域の歴史や文化、地理、産業、観光資源などの情報化することを通じて、郷土愛を育てることが目的。





# 串本街歩き & LocalWiki編集会(2)

## 【開催日時・場所】

2017/11/18

串本町役場別館会議室1階

## 【主催・共催・後援】

主催:和歌山県立串本古座高等学校CGS部、

後援:上仲輝幸(UDC和歌山実行委員会・紀伊民報)

共催:アーバンデータチャレンジ2017実行委員会

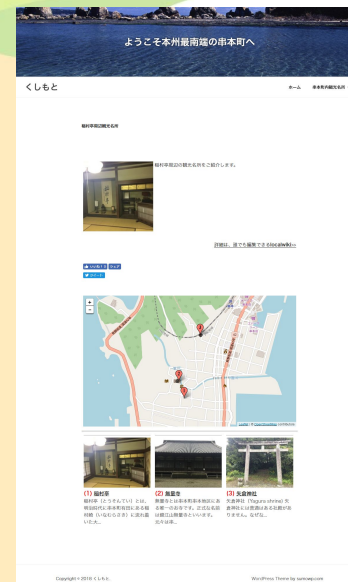
## 【参加者数】

11名:高校教員2名、高校生4名、  
串本役場2名、和歌山県庁2名、  
新聞社1名

## 【ホームページ】

<http://kkhs.civic.style>

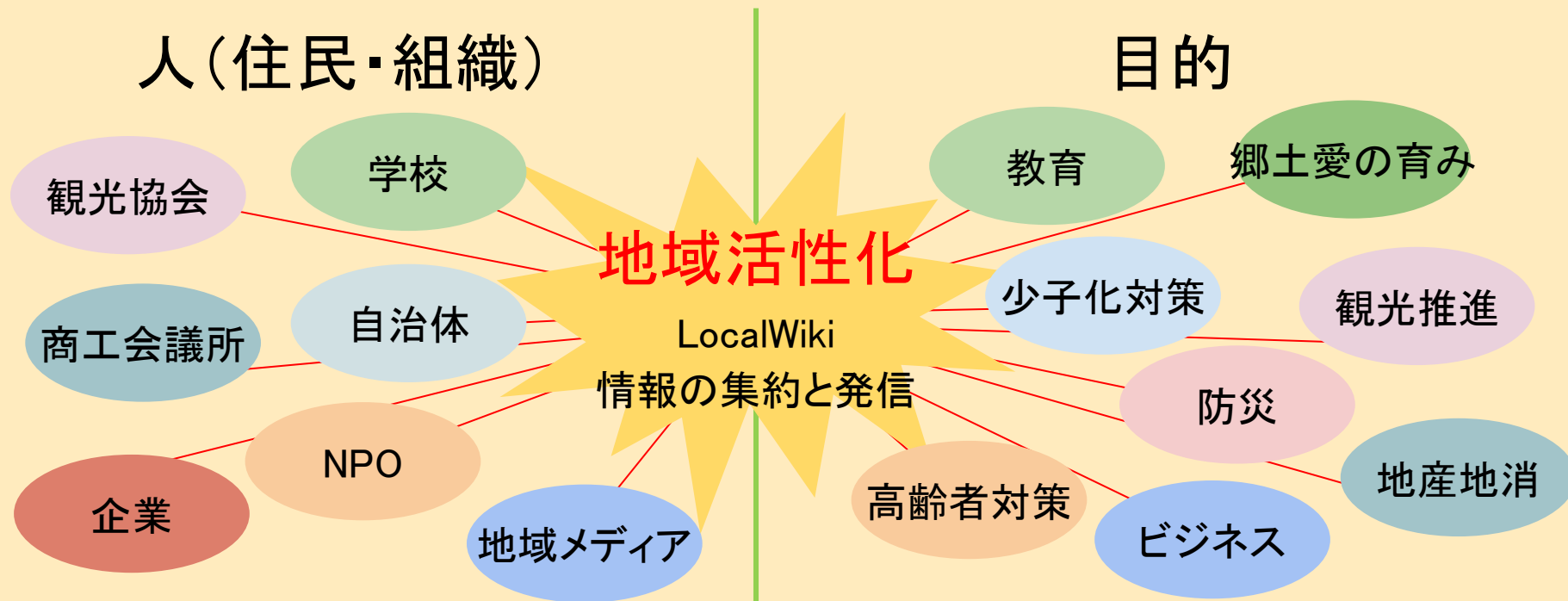
<http://ksm.civic.style>



# 目的は違っても、共通の取り組み

地域活性化という共通の目的があっても、それぞれの状況や立場によって、

**目的は異なる。**



**LocalWikiを活用することで、それぞれの目的を達成**

# シビックテックとは何か



アーバンデータチャレンジ2017に参加する上で、  
UDC和歌山実行委員会として、  
最初に考えたこと、  
我々にとってのシビックテックとは何か、  
一番重要なことは何か、  
原点に帰って見つめ直しました。



# 見える化と総合設計



- 情報を共有する
- 見える化をする
- 情報を人につなぐ
- 情報を出す側の課題解決

情報を出す側、受け取る側、  
目的の達成も含めて、  
総合設計することが重要

# 和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテック

- 人と情報をつなぐ
- 情報と情報をつなぐ
- 人と人をつなぐ

情報を共有すれば、心が動く

和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテックは、  
技術の前に「**つなぐ**」ことがスタートライン。